

学力向上フロンティアスクール 中間報告書

都道府県名 大 阪 府

学校の概要（平成15年4月現在）

学 校 名	箕面市立第一中学校					
学 年	1 年	2 年	3 年	特殊学級	計	教員数
学 級 数	5	5	6	2	17	33
生 徒 数	184	196	212	5	597	

研究の概要主題

1. 研究主題

「生徒の実態に応じたきめ細かな指導の一層の充実を目指して」

- 自尊感情の育成を図り、学習意欲継続のための支援のあり方を探る -

2. 研究内容与方法

(1) 実施学年・教科

1年生 数学（理解の差がすでに生じてきており、早期の解消を目指す。）

1年生 理科（理科離れが進む中、基礎・基本の定着を図る。）

1年生 英語（初期のつまづきを起こさせない。）

2年生 数学（理解の差を継続的に解消する。）

2年生 理科（理科に対する興味・関心を持続させる。）

2年生 英語（理解の差が生じており、その解消を目指す。）

・平成13・14年度箕面市到達度学力調査（CRT）及び本校1年の同調査により、「理科」の正答率が全国平均を下回っているなどの学力実態が明らかになった。今年度はこの結果から、数・理・英を重点教科として本事業を進めることにした。

(2) 年次ごとの計画

テーマ

生徒個々の実態に応じたきめ細かな指導の一層の充実を図り、学習意欲の継続のための支援としての指導方法を研究する。また、学力実態の正確な把握に努める。

仮説

双峰型の学力実態の分布状況を踏まえ、理解の進んだ集団と理解が不十分で学習意欲の継続が困難な集団の中で、理解不十分な生徒の学習意欲の継続育成を図り、個に応じた指導を徹底する。一方、理解の進んだ生徒に対しても、更に自ら進んで高度な学習に取り組むよう指導の工夫・改善を図ることにより二極化する分布の解消ができると考える。

研究内容・研究方法

・生徒個々が抱えている課題を速やかに発見し、より効果的な指導方法を追及する。

そのために、少人数授業専用の教室を設け、掲示物や机配置などを工夫する。

・本市においては、平成13年度から2年生の国語・数学・理科・英語において学力実態調査が行われ、結果を各教科の指導に生かすために、学力実態調査研究委員会を立ち上げ、研究が進められている。本校においても、独自の実態調査を実施し、生徒の学力実態を明らかにするとともに、学力向上フロンティアスクール特別委員会が市の学力実態調査研究委員会とタイアップしながら、研究を推進していきたい。

・校内研修会の充実や先進地視察などを行う。

平成14年度

平成15年度

テーマ

「生徒の実態に応じたきめ細かな指導の一層の充実を目指して」

仮説

数学・理科・英語のそれぞれの教科で2教室ずつ「少人数教室」を配置し、教室内に教材・教具等の整備を進め、学ぶ環境づくりに取り組む。また、生徒の学習実態に応じて習熟度別クラス編成を行い、場合によってT Tの授業を組み込むなど、ねらいに応じた適切な授業形態を探求する。これらのことによって、授業の活性化を推進し、全体的な学力の向上を図ることができると考える。

研究内容・研究方法

- ・数学科では、習熟度別クラス編成による少人数授業を行う。
- ・理科は、T Tによる授業や実験、少人数による授業など、それぞれの単元の内容に応じた授業形態を選択する。
- ・少人数授業で、英語指導助手とのT Tを進め、英語を使用する場面を増やし、コミュニケーションの楽しさを追及し、学力の向上を図る。
- ・校区においては、低学年から系統的に総合的な学習の時間に英語の学習を行っている小学校もあり、国語・数学（算数）を含め、校区内小学校との連携を進めていきたい。

平成16年度

テーマ

「生徒の実態に応じたきめ細かな指導の一層の充実を目指して」

仮説

小学校や地域との連携推進、指導方法や授業形態の工夫、全教科での研究授業の推進と工夫した教材の活用、総合的な学習の時間の充実や生徒指導の充実により、学ぶ意欲の向上を図ることによって、生きる力の中核となる豊かな人間性と確かな学力を身につけさせることができると考える。

研究内容・研究方法

- ・定期考査や1・2年生の学力実態調査等を踏まえ、各学年での指導法の工夫改善や教材開発に努める。
- ・数学、理科、英語の各教科において、授業内容によって多様な授業形態を組み合わせた授業を実施し、適切な指導方法や形態のあり方について探求する。
- ・選択授業や総合的な学習の時間との関連を図り、全体的な学力の向上に努める。
- ・校内LAN、学校図書館を活用した授業に努め、全校的な読書活動を実施する。
- ・校区内小学校との教科指導上の連携を進める。
- ・箕面市学力実態調査研究委員会及び隣接の学力向上フロンティアスクールとの教科連携を進める。

(3) 研究推進体制

学力向上フロンティア特別委員会

構成：校長、教頭、教務主任（事務局長）、数学科主任、理科主任、英語科主任

学力向上フロンティア拡大特別委員会

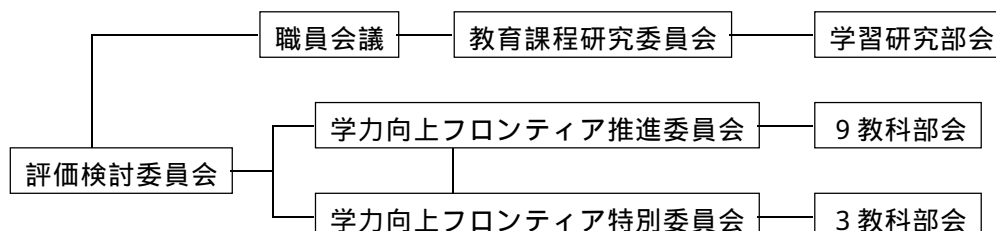
構成：校長、教頭、教務主任（事務局長）、数学科・理科・英語科の担当教員全員

学力向上フロンティア推進委員会

構成：校長、教頭、教務主任（事務局長）、各教科主任

教科会議

数学科全員、理科全員、英語科全員



平成15年度の研究の成果及び今後の課題

1. 研究の成果

校区内小学校との連携のため、AETが定期的に両小学校で授業を行うほか、数学・理科についても、教科としての交流を図ることができた。

学習の評価を「絶対評価」に切り替え、個々の生徒の学習状況を小テストの実施等により、正確に把握することができた。

学力実態調査（CRT）では、数学・国語はほぼ全国並み、英語においては全国平均を6点程度上回り、一定の成果が見られた。

数学 前年度は1年生で、均等分割の少人数授業を行った。今年度は2学期の「文字と式」の単元より、習熟度別のクラス編成による少人数授業を開始した。

クラスは「既習内容の基本事項を整理しながら授業を展開するクラス」と「同じ進度で、問題集や発展的な問題に取り組みながら授業を展開するクラス」とに分けた。

その成果として、まず、今まで数学が苦手であった生徒の姿勢が大きく変わってきたことが上げられる。「アンケート調査」の結果からも、「習熟度別のクラス編成が良い」が85%あった。理由として「自分にあったペースで学習できるのがよい」「質問しやすくなった」「もっと発展的な問題に取り組みたい」などの意見があった。

考査結果においては、前期第1回考査で70点未満の生徒のうち40%の生徒が前期第2回考査で代数領域の7割以上の得点を得ることができた。

理科 視聴覚機器やITを活用し、視覚を通して理解を深めることやプチ実験・プチ作業を組み込み、生徒の興味・関心を呼び起こすなどの工夫を行った。

数量関係と論理的思考力が要求される領域は、生徒にとってつまずきやすいところであるが、TTによる指導によって、到達度が向上してきている。

生徒相互、対教師との人間関係が深まり、前向きな姿勢が見られるようになった。

英語 入門期における英語への興味・関心を継続させるために、少人数授業は効果的であった。

英単語や英文を使う場面を丁寧に設定することで、多くの生徒が「理解できた」と感じている。

英語指導助手（AET）とのTTによって、コミュニケーションの楽しさがわかり、授業に積極的な姿勢を持つようになってきている。

小学校と小中連絡会を開くことができた。AETが定期的に両小学校に出向き、授業を行っている。

2. 今後の課題

- (数 学)・効果的に学習指導するために、少人数編成の方法を引き続き研究する。
 - ・昨年度末に現2年生が実施した到達度学習調査結果から、比例反比例の領域が低いことが判明している。指導方法の研究や教材作成の工夫を進める。
 - ・教科での打合わせや会議のための時間確保が必要である。
- (理 科)・小規模授業に止まることなく、生徒自身が選び、学習意欲を高める習熟度別クラス編成やその運用方法を工夫する。
 - ・CRTの結果を分析し、授業改善に生かすよう研究を進める。
 - ・小学校、教育関係機関との交流を図る。
- (英 語)・少人数授業やAETとのTT授業を、全ての学年での実施を模索する。
 - ・選択授業や総合的な学習の時間にも、「教科授業につなげる工夫」「教科授業から発展した内容や教材の工夫」を追求する。
 - ・校区小学校の英語教育との連携をより一層図る。
- (その他)・3教科以外での研究促進を進めるため、来年度、各教科の研究授業実施に向けて、フロンティア推進委員会で協議を行う。

学力把握のための学校としての取組

平成15年3月に、1年生を対象に4教科でCRTを実施。

平成15年4月に、1年生を対象に2教科でCRTを実施。

平成16年2月に、1年生は3教科、2年生は4教科でCRTを実施予定。

平成16年4月に、1年生を対象に2教科でCRTを実施予定。

平成17年3月に、1・2年生を対象に3教科でCRTを実施予定。

各教科で体系的、計画的な単元テストを実施する。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- (1) 平成15年6月12日に「研究授業」を実施。(豊能・三島地区フロンティア校)
- (2) 平成15年11月12日に、「研究発表会(中間発表)」を開催。(豊能・三島全中学校府内フロンティア校)
- (3) 平成16年11月に、「研究発表会」を開催予定。
- (4) 豊能・三島地区フロンティア協議会等で、数学における習熟度別授業実践の有効性を発表してきた。更に、大阪府内の学力フロンティアスクールとも連携し、研究成果の交流を図る。
- (5) 箕面市教育センターの研修等に参加し、実践内容を報告してきたが、箕面市教育研究会各教科部会等において、随時、成果を還元する。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること（複数チェック可）

【新規校・継続校】	15年度からの新規校	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/> 14年度からの継続校	
【学校規模】	3学級以下		4～6学級	
	7～9学級		10～12学級	
	13学級～15学級		<input checked="" type="checkbox"/> 16学級以上	
【指導体制】	<input checked="" type="checkbox"/> 少人数指導		<input checked="" type="checkbox"/> T.Tによる指導	
その他				
【研究教科】	国語	社会	<input checked="" type="checkbox"/> 数学	<input checked="" type="checkbox"/> 理科
	<input checked="" type="checkbox"/> 外国語	音楽	美術	技術・家庭
	保健体育	その他		
【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】		<input checked="" type="checkbox"/> 有	無	